

平成15年
10月

第5号

九州大学病院
広報サービス委員会発行

九大病院だより

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

三病院統合し(九州大学病院)で新発足

九州大学医学部附属病院と同大歯学部附属病院、同大生体防御医学研究所附属病院の3つが統合し、10月1日に「九州大学病院」として新しく発足しました。これは来年4月に大学が特別法人になるのに伴い、統合して病院経営を改善しようというわけで、この結果、大学病院が持つ「教育・研究・診療」の目的がより明確になり、患者さん本位の全人的医療、高度先進医療などを進めアジアの拠点医療施設としての役割が期待されています。

これまでの九州大学医学部附属病院は1903年(明治36年)に京都帝国大学福岡医科大学附属病院として発足、今年で100年余の歴史があり、1,235床を持つ伝統のある病院です。虫歯から口腔まで広く歯科治療を行う歯学部附属病院は1967年(昭和42年)に設立され、病床数は40床。生体防御医学研究所附属病院は泉都の大分県別府市にあり、温泉を医学治療に役立てるために1931年(昭和6年)に温泉治療学研究所の診療部門として設置され、1964年(昭和39年)に内科、外科、産婦人科、皮膚泌尿科を揃えた140床の病院になり、さらに1982年(昭和57年)に医学部癌研究施設と、統合合併して生体防御医学研究所附属病院となりました。

統合を機に「教育・研究・診療」の三位一体の役割は勿論のこと、基本理念として患者さんに即した医師の育成・医学研究の推進国際的に通用する高水準の先進医療を目指し、アジア各国に向けた開かれた大学病院、プライマリケアを重視した包括、継続的総合診療の展開などで、地域と連携した地域医療に積極的にお役に立つことなどを掲げています。

これらの理念を実現するために、診療科の再編成や遺伝子治療などの新しい治療部門を立ちあげ、さらに治験と創薬開発を進めるための臨床研究センターの設置のほか、別府の病院は100床にして先進医療センターに改組、患者さんのQOL(生活の質)向上を目標とした医療開発などを考えています。



●九州大学病院



●九州大学病院
(歯科医療センター)



●九州大学病院
別府先進医療センター



医療の質の向上を目指して —カルテ委員会より—

九大病院は本年10月からの医学部附属病院、歯学部附属病院、別府の生医研附属病院の3病院を統合し、来春からの独立行政法人化を目前に控え、大きな変革期を迎えています。九大病院では、これまで各診療科毎に独自のカルテを使用しておりましたが、3病院統合を機に各診療科ごとのカルテを見直し、統一様式のカルテを作成しました。また、医師、看護師が同一のカルテに時系列で診療の記録を書く事に統一しました。最近では、情報公開が広く求められるようになり、カルテの記載内容も必要に応じて、患者様や御家族に開示する時代になってきましたので、カルテの記載もできるだけ日本語にするよう統一しました。また、カルテの記載そのものは各々主治医に任されておりましたが、今回初めて「診療録ガイドライン」を策定し、記載内容や方法に関し細かく

第二外科教授 前原 喜彦

MESSAGE from Yoshihiko Maehara



規定し、統一性のある透明性の高いカルテを目指しております。将来的には電子カルテに移行することを考慮中ですが、そのためには十分な予算と準備期間が必要です。それに先立ち、本年10月からは患者様の退院時のカルテのまとめを全科統一の書式で電子化し、各診療科が相互に参照できるようにしています。これらのことは、私どもが患者様に提供できる医療の質の向上に繋がるものと信じております。今後は、IT化が更に進む事が予想されますが、九大病院と地域の診療所がネットワークで繋がれ、病院や診療科が異なっても、患者様に関する全てのデータを共有することで、生涯一患者一カルテが可能になるかも知れません。

コラム

当科は明治38年に誕生し、来年で100周年を迎えます。初代の稲田龍吉教授は黄疸出血性レプトスピラ病という病気の病原体を発見し、日本人として初のノーベル賞候補に挙げられました。現在の診療は、原田実根教授をはじめ総勢約40名の医師が東5階病棟、中央5階病棟を中心に行っています。診療領域は血液疾患、固形がん、膠原病、免疫疾患、感染症を中心に循環器疾患、肝臓病、糖尿病の診療も行っています。外来診療は新患外来が月曜から金曜まで毎日、専門再来はそれぞれの担当領域で週1回行われています。診療領域および外来の詳細につきましては当科のホームページ (<http://www.1nai.med.kyushu-u.ac.jp>) をご参照頂ければ幸いです。



●第一内科部長の原田教授

診療内容では先端医療に特に力を入れており、血液疾患に対する造血幹細胞(赤血球、白血球や血小板の元になる細胞です)移植の実施数に関しては、全国でも有数の施設となっています。また、造血幹細胞移植を血液疾患のみならず、固形がんや膠原病にも応用し、期待できる効果をあげています。以上のように西日本における難治性疾患に対する高度先進医療の中心となるべく努力を重ねています。診療姿勢としては「患者様のために」をまず第一に考えること、患者様を一つの分野からのみ診療を行うのではなく、いろいろな角度から全人的に診療することを心がけながら今後も診療を行っていきたく考えています。

(第一内科 TEL:092-642-5300)

乳がん 早期発見のために

日本では毎年約3万人の女性が乳がんと診断され、約1万人の方が乳がんで亡くなっています。今や女性の30人に1人が乳がんにかかる時代ですが、今後さらに増加すると予想されます。乳がんの発生を予防することは困難ですが、乳がんは早期発見によって助かる病気です。何よりも早期発見に繋がるのが自己検診です。乳がんの主な症状は、痛くないしこり、皮膚のひきつれ、乳頭の陥没やただれ、乳頭からの分泌などです。乳房の皮膚や乳頭を注意深く観察し、しこりがないか乳房をまんべんなく触ることが大切です(図参照)。また、検診も早期発見に重要なものです。国をあげて乳がん早期発見に取り組んできた欧米諸国では、乳がんの罹患率が日本の数倍もあるにもかかわらず、最近乳がん死亡率が減少してきています。欧米諸国の乳がん検診受診率は70-90%ですが、我が国では10%にすぎません。今後日本でも視触診にマンモグラフィーを併用した検診が普及すると考えられます。このような検診を積極的に受診されることをお勧めします。乳がんの治療では、手術はもちろんのこと、抗がん剤やホルモン剤などによる薬物療法、放射線療法などをうまく組み合わせることが非常に大切です。乳房に少しでも不安や症状がある場合にはためらわず乳がん専門の医療機関(乳癌外科、もしくは外科)を受診しましょう。

(第二外科 教授 前原 喜彦)

乳癌疾患担当医 徳永 えり子、連絡先: 642-5479)

◆鏡の前で乳房をよく見る



乳癌の大きさ、形に異常がありませんか? 乳癌のどこかにくぼみやひきつれられたところはありますか。乳癌がへこんだり、陥没のようになったら疑って見てください。

◆乳房をまんべんなく触る



鏡以外の4本の指の腹で、乳房を軽く圧迫して、まんべんなく触れてみます。胸に軽く力を入れ、小さく「の」の字を書くようにして触れてください。乳癌の硬さの凹凸やぶつぶつした感じがわかれば、正しいやり方です。乳癌を触れてつまむようにして調べると、乳房がなくてもしこりのように感じますので、必ず胸の奥で探ってください。乳癌をくまなく触診するために、乳癌のどの部分から始めて、どの方向に探っていくかを十分に決めておきましょう。

◆乳首からの分泌物がないか調べる



最後に乳房や乳首を触るようにして乳首からの分泌物がないか調べます。

アンケート調査結果報告

「九大病院だより第3号」で行ったアンケート調査では、たくさんの方にご協力いただきありがとうございます。回答者数は71名で、今後取り上げてほしいテーマとしては、「診療科の専門分野」が最も多く、次いで「高度先端医療」、「病気・医学用語の解説」の順となりました。その他にも本当にたくさんのご意見・ご提案をいただき、大変参考になりました。また、「九大病院だより」の配布場所がわかりにくいのご意見もあり、今後さらに工夫をしていきたいと考えています。

今回皆さまから頂きました多くのご意見・ご要望等に応えていけるよう今後もさらに努力してまいります。

研修医の一日



●検査の説明をする小園先生

真新しい白衣に袖を通し、第一外科での研修を開始して4ヶ月が経ちました。今回は、第一外科での私の一日をご紹介します。第一外科では月、水、金曜日が手術日、火、木が術前術後カンファレンス、総回診の日です。手術日には午前7時頃から受け持ち患者さんの病室を訪問し全身状態のチェック、採血などを行い、8時には手術患者さんと共に手術室へ向かいます。

手術終了時間は様々ですが、手術終了後は病棟へもどり術後管理、切除標本の整理を行います。夕方には指導医と共に患者さんを訪ねて、状態把握、検査の結果や明日の検査の説明などを行います。その後翌日のカンファレンスの準備を行います。気がつけば日付が変わっていることもしばしばです。手術日でない日は7時45分から術前術後カンファレンスが行なわれます。手術について第一外科すべての先生が症例を検討します。その後総回診が行われます。以上が私の一日です。睡眠時間は短く、時に肉体的にきついこともありますが、退院される患者さんの笑顔を励みに一日一日を大切にし、残りの研修も実りあるものにしたいを思っております。

(第一外科 研修医 小園 真吾)



病院
地区

建物紹介

手術器材自動搬送システム

感染防止と業務の効率化を実現

本院では、手術室業務の効率化と術中管理の質を高めることを目指して、手術器材の洗浄・滅菌という手術前後の業務を手術部から材料部に移し、材料部と手術部間に手術器材自動搬送システムを導入しています。

このシステムは、手術器材を滅菌コンテナにセット化して管理を容易にすると共に、滅菌コンテナの材料部から各手術室への供給、使用済み器材の材料部への回収と廃棄物の搬送というすべての業務を自動的に行うものです。

手術前日に各症例に応じた手術器材セットをコンピュータに入力しておく、前日の夜に滅菌コンテナが地下の材料部から無人搬送車で3階の手術部に運ばれ、さらに手術部廊下の天井に設置された懸架式搬送車で自動的に各手術室に搬送されます。また、使用済み器材と廃棄物は手術部外周廊下の回収用ステーションから無人搬送車が自動的に回収し、それぞれ材料部と廃棄物集積ステーションへと搬送されます。

このシステム（供給から回収までの無人搬送率は日本で初めて）の導入によって、手術部スタッフは、より患者さんの側にいることができるようになり、また患者さん・スタッフの動線、清潔器械の動線、汚染物の動線を完全に分離することで作業効率が高く感染事故の発生がしにくい環境を実現できています。

(手術部副部長 甲斐 哲也)



●回収用無人搬送車



●天井懸架式搬送車



●自動倉庫と供給用無人搬送車

※奨学寄付金とは、教育・学術研究の奨励及び病院運営の助成等のため、個人・法人等から寄付金として受け入れるものです。詳しくは、左記掛へお問い合わせ願います。

季節と健康 インフルエンザ

冬はインフルエンザの流行シーズンです。インフルエンザは、高熱、倦怠感、筋肉痛などの全身症状を伴いやすく、肺炎などの重い合併症の頻度も高いことから、普通の風邪（ウイルス性上気道炎）とは別の病気ととらえる必要があります。最近では、鼻の分泌物などの検査で迅速に診断し、新しく開発された抗ウイルス薬を使って治療することができるようになってきました。しかし、呼吸器の病気の方や高齢の方などインフルエンザが重症となる危険性が高い方々は、シーズン前に予防接種を受けることが勧められています。（小児科 楠原浩一）



用語解説 気になる医療・医学の言葉

◇「副作用」とは？ 薬を飲むときに最も気になることは、どんな「副作用」があるのかということだと思います。



「副作用」とは、薬を飲んだときに現れる病気治療の目的以外の作用をいいます。「副作用」には主に①期待とは違った作用が現れる場合（例：かぜ薬を飲んだときの「眠気」など）と②薬が予想よりも強く作用してしまう場合（例：糖尿病の薬を飲んだときの「低血糖」など）があります。

「副作用」が全くないという薬はありません。しかし、薬を飲めば必ず副作用が起きる訳ではなく、「副作用」の現れ方は人によって異なります。薬は決められた用法・用量を守って服用し、少しでも不安があれば迷わず医師・薬剤師に相談しましょう。

医療トピックス (新聞に掲載されたニュース等をお知らせします。)

◇医療事故の分析機構新設 来年4月から医療事故報告制度が始まるが、厚生労働省は財団法人日本医療機能評価機構（東京）で全国から集まる事故事例を分析する新しい部署を新設する。そのための経費1億6,000万円を来年度予算に要求する。「ヒヤリハット事例」も集め、新部署を医療事故防止の情報発信拠点に整備する。（西日本新聞）

外来診療日一覧

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。
(市外局番は「092」です)

階	科名(電話番号)	初診日	再診日	階	科名(電話番号)	初診日	再診日	診療施設等	電話番号
1	総合診療部 (642-5300)	月～金	月～金	1	整形外科 (642-5504)	月・水・金	金	救急部受付	642-5873
1	内科(初診) (642-5300)	月～金	月～金	2	脳神経外科 (642-5533)	月・水・金	月・水・金	時間外受付	642-5163
2	内科(再来) (642-5302)			2	心臓外科 (642-5565)	月・木	月・木	総合外来受付	642-5138
2	心療内科 (642-5335)	月・木	火(水)金	2	小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金	入院受付	642-5149
2	神経内科 (642-5349)	火(木)金	月・水	2	皮膚科 (642-5596)	月・水・金	火・木	公費申請受付	642-5185
2	循環器内科 (642-5371)	月～木	月・水	2	泌尿器科 (642-5615)	月～金	月・水・金	地域医療連携室	642-5165
2	呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月・火 水・金	1	精神科神経科 (642-5640)	火・木	月(水)金	支払い窓口	642-5169
2	産科婦人科 (642-5409)	火・木	月～金	1	眼科 (642-5660)	月・水・金	月～金	リハビリ受付	642-5862
2	周産母子センター (642-5900)			2	耳鼻咽喉科 (642-5681)	月～木	月(水)金	医療相談	642-5914
2	小児科 (642-5430)	月～金	月～金	1	放射線科 (642-5705)	月・水・金	月～金		
1	第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金	2	麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金		
1	第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金						

※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日
土曜日、日曜日、祝日、
年末年始(12/29～1/3)
- 受付時間
8:30～11:00
- 外来玄関開閉時間
7:00～18:00

- 注
- 予約がある場合はこの限りではありません。
 - 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

(代表) 092-641-1151



病院にお越しの際は保険証をお忘れなく！

※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができないことがありますので、予め御了承願います。

ご意見・ご感想を電子メール(ibsikak@jimu.kyushu-u.ac.jp)
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております！